

ミズクラゲポリプの再生における対称性の攪乱

加藤憲一, 外山秀人(大教大・生物)

Disturbance of symmetrical site-regeneration of tentacles in Aurelian polyp and early strobila

KEN-IHI KATO, HIDEO TOYAMA

ミズクラゲのポリプは16本の触手をもっている。ポリプを上から1/5の水準で切断すると、2日後に触手再生が起る。再生触手は、先づ対称位に2本が、以後は先行形成触手の中間に2, 4, 8本と次々に生じ、16本が回復する。マイトマイシンやアフィディコリンで処理したポリプや第1溝形成期ストロビラを第1溝水準で切断すると、上述のような触手の対称位再生が妨げられる。即ち、触手の非対称位形成率は再生初期程高く後程低くなる指数関数的に示されるものであった。このような事実は、DNA合成阻害剤が再生における形態回復情報の発現を阻害していることを意味するが、16ヶの触手芽形成部位を変更するものではなく、形成の順序と相対的位置関係を攪乱するものようである。放射相称型の形成機序の問題について今後分析してゆくための手掛りになるろう。